

1. 補植

サクラは成長が早く枝葉が横に広がる性質がある為、早くサクラを茂らせたいと考え植栽間隔を狭く植えるとお互いの枝葉が重なり合いストレスとなり寿命が短くなります。

そこで、サクラとサクラの間隔は一般には12.0m(半径6.0m)以上必要であると言われていて、サクラが健康に育ちやすく、後々の管理が容易であると言われています。

各地でもサクラの老齢木が枯死した跡にサクラを補植していますが健全な生育は難しいと言われています、それはサクラはバラ科の植物で枯死した根に発根阻害物質を生成するので、それらの物質が根の活性を低下させるため、土壌の入れ替えを行ってもその領域を超えると成長が止まり枯死することがあるためです。

そこで、土壌浄化能力の高い木炭やゼオライトが土壌改良材として再認識されていて、土壌汚染の有害物質を除去して根と共生関係の菌根菌など有用菌の密度を高めてくれるので、根尾のうすずみ桜をはじめ多くの樹木の樹勢回復に役立てられています。

土壌改良に使用する細かく砕いた木炭は今では高価となったので、最近では安値でホームセンターなどでも手に入りやすい、もみ殻燐炭を多く使用するようになりました。

腐朽菌が残る土壌では木材チップや堆肥はそれを助長するので絶対に混入しない様注意して下さい。いずれにしても、枯れた株からはある程度離れた位置に補植するのが一番無難であると思われます。また、サクラは成長が早いので、安値で入手しやすいポット苗を植えたほうが根も切られることもなく腐朽菌も入りにくい上にその土地になじみ安く生育しやすいと思われます。

2. 現在高田橋付近から下流にかけての古いサクラの多くは癌腫病などに侵されて上部の枝や幹の枯れたものが多く見られますが、幹の下部や地際付近からは新たに細い若い枝(ひこばえ)が数本育っています。

その内の育ってほしい枝を1本選んで残し、それを育てることで将来上部の枯れが進行した場合、上部を切除して残した枝に世代交代をさせて成長させることは、新しいサクラを植えるより老木の生命力で更新させやすく成功した例は数多くあります。

岐阜市大洞の願成寺にある国の天然記念物である中将姫誓願ザクラも古株から育ったひこばえにより1,300年もの長きに渡り生き続けています。



古株の脇から出た芽で更新



古株の股から出た芽で更新

ここは古く昭和28年から環境衛生モデル地区の指定を受け多くの市民のいこいの場所であり続けた場所なのでこれからも高田のサクラとして長く維持していただきたいのですが、枯れた樹や枝も多く先月各務原の学びの森公園で落枝による事故が発生したので、安全を第一に考えて倒木や落枝対策も同時に進めて頂きたいと思います。